



令和4年度 横浜市幼保小連携推進地区事業

日野地区活動報告 (春日野幼稚園・日野小学校)

推進テーマ

「子どもたちの育ちと学びをつなぐ幼保小連携の推進」

推進内容

- ①幼小接続期の交流の在り方
- ②交流事業を通じた各職員間の顔が見える関係づくり
- ③子どもの発達についての研修会実施



推進テーマについて

○令和3年度は、それまで曖昧であった幼保小連携事業の目的や年間計画や目標を設定した。

令和4年度は、これからの2年間の取組で、必然性があり効果的な連携の形を研究・実践することにより、連携計画を確立し交流事業の活性化を図りたいと考え、推進テーマを設定した。



今年度の重点課題

- ・ 職員間、子ども達の交流の再開
- ・ 幼保小各機関の支援・指導内容に関する相互理解
- ・ 研修による幼児教育への理解の深まり



今年度の活動① 園児と児童の交流

◆ 12月

近隣公園に合流し、花壇に球根植えを行う予定であったが、コロナ感染症の状況により、幼小それぞれ別日に実施。

◆ 1月

年長園児を小学校に招待し、小学1年生が校内を案内したり5年生が小学校生活を紹介したりする活動を行う。

◆ 2月(予定)

- ・ 1年生と年長園児が1月の交流活動をふり返り、メッセージの交換を行う。

園児・児童の交流

- ▶ 3年ぶりの小学校訪問です。1年生が出迎えました。「ようこそその会」



1年生が進行をして ゲームで仲良しになりました。



園児・児童の交流

校内を案内します。授業を見ました。



図書館や校長室にも行きました。



園児・児童の交流

5年生とも交流しました。ランドセルやお道具箱などの説明をしました。



4月からはペア学年です。



今年度の活動② 職員の交流・研修

- ◆ 5月
 - ・ 小学校運動会を幼稚園職員が参観。卒園後の児の状況について情報共有。
- ◆ 7月
 - ・ 第1回推進委員会。事業目標の確認、年間計画を協議。
- ◆ 8月
 - ・ 幼稚園・小学校の教育目標等の相互理解を図る合同研修を紙面資料を交換する形で実施。
- ◆ 10月
 - ・ 港南区幼保小講演会視聴
「幼保小の接続期における福祉的課題」講師 市教育委員会統括SSW
 - ・ 幼稚園運動会を小学校職員がリモート参観。
- ◆ 1月
 - ・ 小学校授業研究会(1学年算数科)に幼稚園職員が参加。
 - ・ 幼稚園公開保育に小学校職員が参加。
- ◆ 2月(予定)
 - ・ 第2回推進委員会 年間活動の振り返り 次年度活動計画協議
園での子どもたちの姿や得意なことなどを共有。

成果と課題

成果

- (1) 3年ぶりに園児が小学校を訪問し児童と交流することができた。また園児が小学校生活や校舎内の様子を直接見ることができた。交流計画を園・小学校職員が共同で検討・実践することができた。今年度も管理職や担当職員では顔が見える関係を築くことはできた。
- (2) 運動会を相互に参観し、子どもの発達段階に応じた競技内容の工夫、安全対策、役割分担や係活動で自主自立を育む支援などについて実践の具体を見ることができた。また、保護者が幼稚園や小学校に期待している事や求めている事などの相違点を感じることもできた。
- (3) 幼稚園、小学校とも教育目標のもと、教育要領や指導要領に準じたカリキュラムを編成し、地域の特性を生かした指導・支援計画作成の工夫に力を注いでいることを共有できた。また、小学校の研究授業、幼稚園の公開保育を参観することにより、指導・支援の具体と子どもの発達段階への理解を深めることができた。



課題

- (1) 年度の早い時期に園・小学校の職員交流を行い、接続期に有効な指導・支援について話し合いを持ちたい。また、交流する職員数と機会を増やし、顔の見える関係を増やしていきたい。
- (2) コロナ禍が依然として継続した場合、子ども同士が対面し共同活動する機会設定が難しくなる。このことを補う手段としてICT活用など、新しい交流方法を考えていく必要がある。
- (3) 小学校には、20を超える幼稚園・こども園・保育園から子どもたちが入学してくる。本推進事業で培った連携手段を他の園とも共有して活用する方法の具体的考察が依然残っている。